

数 学 科

■ 移行措置（平成 21 年～ 23 年）への対応は、どのようにしたらよいか。

数学については、現行の教育課程から新しい教育課程へと円滑に移行できるようにするために、平成21年度からの移行期間中から、新学習指導要領の内容の一部を追加するなどして先行実施することとしている。

(1) 算数、数学の改訂のポイント

- ① 発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による指導を充実（複数学年にわたり指導内容を一部重複させる）。
- ② 国際的な通用性、内容の系統性の確保や小・中学校の学習の円滑な接続等の観点から、必要な指導内容を充実（小学校：台形の面積等，中学校：二次方程式の解の公式、標本調査等）。
- ③ 学ぶことの意義や有用性を実感できるよう，数量や図形についての知識・技能を実際の場面で活用する活動などを充実（小学校：「算数的活動」，中学校：「数学的活動」）。

(2) 移行期間中の標準授業時間数

	数学				選択			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
平成20年度	105(3)	105(3)	105(3)	315	0～30	50～85	105～165	155～280
平成21年度	140(4)	105(3)	105(3)	350	0～15	50～85	80～140	130～240
平成22年度	140(4)	105(3)	140(4)	385	0～15	15～50	45～105	60～170
平成23年度	140(4)	105(3)	140(4)	385	0～15	15～50	10～70	25～135
平成24年度	140(4)	105(3)	140(4)	385	0	0	0	0

(3) 移行期間中の指導内容 (リンク)

○ 移行期間中の指導内容について(詳細はリンク先へ)

移行措置に関する内容	
第1学年	<p>新しい学習指導要領から追加・・・平成21, 22, 23年度に実施(太字の部分を追加)</p> <p>A数と式・・・(1) 正の数・負の数 ・数の集合と四則計算の可能性[内容の取扱い(1)] (2) 文字を用いた式 エ 文字を用いた式による表現や読み取り ・大小関係を不等式で表すこと[内容の取扱い(2)] (3) 一元一次方程式 ・簡単な比例式を解くこと[内容の取扱い(3)]</p> <p>B図形・・・(1) 平面図形 イ 平行移動, 対称移動, 回転移動 (2) 空間図形 ウ 球の表面積と体積 ・投影図[内容の取扱い(5)]</p> <p>C関数・・・(1) 比例, 反比例 ア 関数関係の意味 [用語・記号] 関数</p> <p>D資料の活用・・・(1) 資料の散らばりと代表値 ア ヒストグラムや代表値の必要性和意味 イ ヒストグラムや代表値による資料の傾向の把握と表現 ・誤差や近似値, $a \times 10^n$ の形の表現[内容の取扱い(6)] [用語・記号] 平均値 中央値 最頻値 相対度数 範囲 階級</p> <p>現行学習指導要領から省略・・・平成21, 22, 23年度に実施(太字の部分省略)</p> <p>B図形・・・(2) 空間図形 ・投影図は扱わないこと[内容の取扱い(4)]</p>
第2学年	<p>新しい学習指導要領から追加・・・特になし</p> <p>現行学習指導要領から省略・・・平成21, 22, 23年度に実施(太字の部分省略)</p> <p>B図形・・・(2) 図形の合同 ウ 円周角と中心角の関係[→平成22年度から, 第3学年で指導するため]</p>
第3学年	<p>新しい学習指導要領から追加・・・平成22, 23年度に実施(太字の部分を追加)</p> <p>A数と式・・・(3) 二次方程式 ウ 解の公式を用いた二次方程式の解法 ・二次方程式の取扱い[内容の取扱い(3)] [用語・記号] 有理数 無理数</p> <p>B図形・・・(1) 図形の相似 エ 相似な図形の面積比と体積比 (2) 円周角と中心角の関係 ア 円周角と中心角の関係の意味と証明 イ 円周角と中心角の関係の活用 ・円周角の定理の逆[内容の取扱い(4)]</p> <p>C関数・・・(1) 関数 $y = ax^2$ エ いろいろな事象と関数</p> <p>D資料の活用・・・(1) 標本調査 ア 標本調査の必要性和意味 イ 標本調査による母集団の傾向の説明 [用語・記号] 全数調査</p> <p>現行学習指導要領から省略・・・平成22, 23年度に実施(太字の部分省略)</p> <p>A数と式・・・(3) 二次方程式 ・二次方程式の取扱いと解の公式を取り扱わないこと[内容の取扱い(4)]</p>